

幼稚園の園庭を活かした花のある環境作り

作成者：花育アドバイザー 佐藤 幸子

■ 実施主体

名 称：花育アドバイザー
担当窓口：佐藤 幸子（岩手県盛岡市）

■ 取組地域 岩手県盛岡市
岩手大学教育学部附属幼稚園



■ 概 要

岩手大学教育学部附属幼稚園は、緑が豊かで四季折々に変化のある恵まれた園庭の自然環境がある。花と緑を効果的に配することでよりよい幼稚園環境作りをする。

身近な資材を使ったペットボトルのハンギングや廃材を活用した花壇を作り、年間を通して花のある園作りを行う。

■ 取組開始時期・経緯

花を育てる知識と花育の実践経験を持っていたことがきっかけで、2010年度4月に、地域との関わりを模索していた岩手大学教育学部附属幼稚園の園庭で、花壇作りや花の栽培を行う花育活動を開始することとなった。

以後2016年度までの6年間に渡り継続して4月～11月に栽培活動を行った。

■ 目的（目標）

- ・ 幼稚園の環境の中に、季節の花や植物を植栽して、身近に花や緑に触れる機会をつくる。
- ・ 日常の遊びの中で、多種多様な植物に触れる機会を作り、五感を働かせた様々な体験を通し「心身ともにたくましく、心豊かな子ども」を育てていく。
- ・ 自然豊かな花のある環境で遊びを通して感性を育む。

【取り組み内容】

- 対象者・人数： 幼稚園児（年少・年中・年長）100人
- 所要時間： 保育時間内・降園後
- 対象場所： 幼稚園園庭
- 指導者・アシスタント人数： 花育アドバイザー1名、幼稚園職員5人、保護者10人

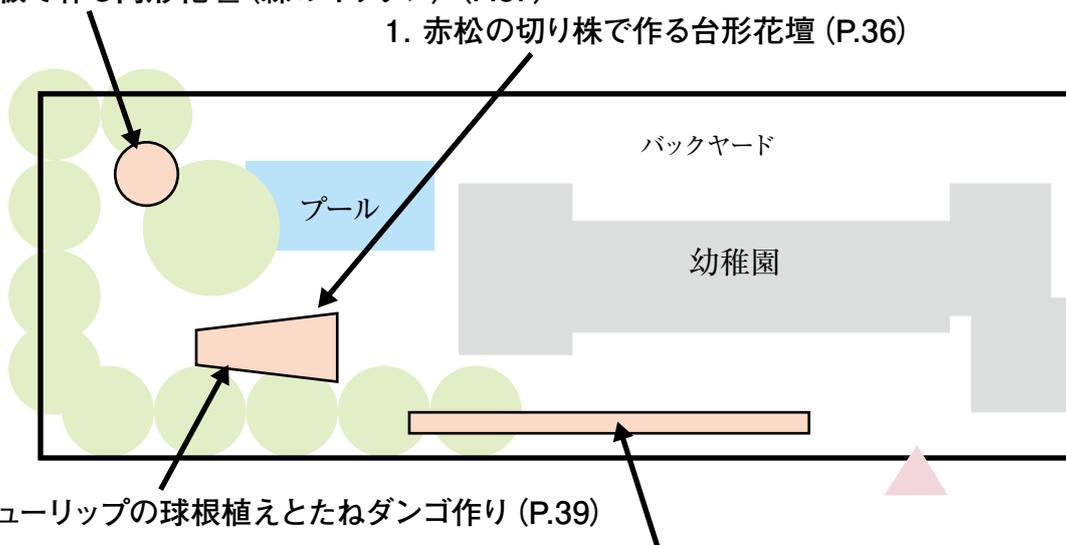
■ 活動内容（指導内容）

- ・先生方から年度ごとの植栽計画を聞き、園庭花壇で春の芽吹きから秋まで楽しめて遊ぶことのできる花壇作りや栽培方法の提案をした。
- ・生育状況を見ながら施肥・メンテナンスのアドバイス。
- ・ペットボトルのハンギングバスケット制作指導。
- ・秋植え球根植え付け・たねダンゴ作りと植え付けの指導。

■ 園内マップ 1.～4.の取り組み場所

2. 畔板で作る円形花壇（森のキッチン）（P.37）

1. 赤松の切り株で作る台形花壇（P.36）



4. チューリップの球根植えとたねダンゴ作り（P.39）

3. ペットボトルのハンギングバスケット（P.38）

1. 赤松の切り株で作る台形花壇（年長児）

2014年10月北側中央の日当たりの良い場所に園庭の赤松を伐採した切り株を使用して花壇製作を提案。先生方立会いの下で花壇面積と形を決め、土壌の掘り起こしをした。赤松の切り株を配置後、固定の為に、横板を地下部で上下2段にして釘で固定。プランター栽培した後の培養土を花壇の用土とし、鶏糞堆肥と化成肥料を投入してリサイクル活用した。以後秋に鶏糞堆肥と化成肥料を施し、夏は化成肥料を施す。秋にバックヤードで、プランター栽培後の土に堆肥を投入して再生土壌を作り、花壇で使用している。

■ 資材

- ・切り株（赤松リサイクル）
- ・平板（柵板リサイクル）
- ・釘
- ・ハンマー
- ・用土
- ・鶏糞堆肥
- ・化成肥料



切り株を再利用して台形花壇を作った

■ 経費

- ・鶏糞堆肥 300円×4袋 化成肥料1.3kg

2016年10月古タイヤを積んで作ったコンテナで高低を出し、花のある空間を作った。



台形花壇はチューリップが満開に



古タイヤの花壇と台形花壇

2. 畔板で作る円形花壇(森のキッチン) (年長児)

2015年秋 隣接する中学校の樹木伐採にともない、日あたり等環境が変化した。

2016年5月 円形花壇を制作し園児が回遊してなおかつ植栽が改善し、園児に手の届く利用しやすい花壇に改修した。

■ 資材

- ・杭
- ・スコップ
- ・化成肥料
- ・かなや槌
- ・一輪車
- ・用土
- ・鶏糞堆肥



既存の花壇の様子

■ 経費

- ・円形花壇 畔板 1枚400円×4枚 プラ角杭 230円×20本



既存の花壇の横に円形花壇を増設



花壇に花苗を植え付けた

3. ペットボトルのハンギングバスケット(年長児)

2010年より5月上旬にペットボトルのハンギングバスケットを制作して園庭を飾っている。
 ペットボトルにアクリル絵の具で色付けして自分だけのハンギングバスケット容器を制作。
 5月から11月まで園庭で園児が水やりをして管理。(夏季休暇中は自宅管理)

6月には盛岡市主催の「もりお花(か)ハンギングバスケットフェア2016」に招待展示として飾った。

■ 資材

- ・2Lペットボトル容器
- ・ビニールテープ
- ・アクリル絵の具
- ・ハンギングバスケット用のスポンジ
(隙間テープ)
- ・培養土
- ・結束バンド ・ミズゴケ



満開のベゴニア

■ 花材

- ・花苗 ベゴニア ・インパチェンス ・パンジー

■ 経費

- ・花苗など 一人当たり500円程度



アクリル絵の具でペットボトルを園児が色つけ



保護者の方々と一緒に制作



水やりお当番さんは誇りあるお役目



もりお花(か)ハンギングバスケットフェア2016

4. チューリップの球根植えとたねダンゴ作り(年中児)

11月には、年中児と一緒にチューリップの球根とたねダンゴを台形花壇に植えた。

■ たねダンゴづくり資材

- ・ケト土 極小赤玉土 培養土
- ・ケイ酸塩白土
- ・園芸用受け皿・プリン等容器

■ 花材 ・種

秋播き ネモフィラ 菜の花 ヤグルマギク ニゲラ
リナリア キンギョソウ スイートアリッサム
アグロステンマ ゴデチャ チューリップ球根

〔 春播きの場合 アサガオ ヒマワリ
 クリムゾンクローバー マリーゴールド
 コスモス サルビア 〕

■ 経費

- ・種代 7000円程度、球根100球



土とケト土を丸めてダンゴにして種を周りについたらたねダンゴの出来上がり



球根を土に埋めてその上にたねダンゴを置く

11月花壇の草花を撤去して
花壇にバックヤードの土を運び鶏糞堆肥混入。
耕して整備しておく。
たねダンゴをつくる。
チューリップの球根を土に埋める。
球根を植えた場所に土をかぶせた後に
たねダンゴを1つ置く。



いろんなチューリップがあることに気づく

■ たねダンゴ花壇の花を使った遊び



花を使ったおままごと



きれいな花の料理ができました



色々な花のコーヒーになりました



吸水性スポンジを使って、
小さなフラワーアレンジメント作りにも挑戦

■ 指導のポイント

- ・春先から晩秋まで花が絶えないような植栽プランを提案。
- ・プランターで使用した培養土を再生して、花壇の土として活用している。
- ・先生方と情報を交換しながら計画をして進める。

■ 園児に関心を持ってもらえるように工夫している点

- ・なるべく園児が理解しやすい言葉づかいで話す。
- ・はっきり、ゆっくり、ボディランゲージも加えて話す。
- ・年中児の時に、たねダンゴや球根を植えることで、春を迎えることに期待が持てるようにしている。
- ・年長児になるとペットボトルのハンギングバスケット作りができるという誇りを持たせる。
- ・球根植えの頃になると先生方が絵本等で季節に応じた導入をしている。
- ・保育時間内に園庭のメンテナンスに伺い園児と触れ合っている。

■これまでの成果（岩手大学教育学部附属幼稚園 副園長下山先生からのコメント）

1. 花育活動に参加して

- ・以前から、四季折々に花がある環境づくりに取り組んでいましたが、佐藤さんのご指導の下、新たに花壇を増やしたり、花壇を作り替えたりしてきました。その結果、花の種類もプランターの数も増えました。また、教員の花への関心、意識も高まり、環境を生かして保育をするようになってきました。
- ・子どもたちは、花がある環境の中で、美しさに心が動いたり、花を遊びに取り入れる際には、色彩にも関心が向いたりしています。
- ・花がある環境の中で、きれいな花を集めることを楽しんだり、色水をつくったり、ケーキを作って飾ったり、多様な活動が生まれ、一人一人が多くのことを学んでいます。

2. ベゴニアのハンギングバスケット

- ・一人一人が自分でハンギングバスケットを作り、ベゴニアを植えるという活動を通して、愛着が生まれ、毎日の水やりなどの世話をしようという意識が生まれています。
- ・マンション住まいなどで、花を植える体験がない子もいます。子どもだけではなく、親世代でも経験がない方もいます。夏休みには、家に持ち帰って世話をしてもらいますが、親子で花を育てる体験をすることになるので、親御さんの自然への関心や意識を醸成することにも一役かっているように思います。

3. たねダンゴ作り

- ・年中組の秋の終わりにたねダンゴづくりをします。春夏と土に触れて遊びを楽しんできた子どもたちにとって、たねダンゴづくりは、抵抗なくやれる無理のない活動です。
- ・花が咲くのは、冬を越し、春が来てからです。花が咲く時期を待つ時間は、自分の成長を重ねることができます。自分が年長組になることへの期待、一番大きい組になる少し先の未来を思い描き、自分の可能性のイメージを広げることに繋がります。年中組から年長組をまたぐこの活動は、このようなことから意義深いと感じます。

■今後の課題やその改善方法

- ・様々な種類の花を使用するので、種から苗を育てるなどの方法で、予算面の解決を考えていきたい。
- ・グリーンカーテンにはアサガオだけでなく、その他のグリーンカーテンに向く品目の栽培も提案していきたい。
- ・園の畑では大根、サツマイモ、枝豆などを栽培。コンテナでの野菜作り経験が足りないこともあるが、新しい野菜品種などの栽培にも目を向けて、園を訪れる方々にも興味をもってもらえるような工夫していきたい。

